

# 友のお供新聞

水戸RC  
雑誌委員会

## 緊急事態に備え

### 「シエルターボックス」



ロータリーの友12月号の表紙

ロータリーは被災地援助を目的に、救援チーム「シエルターボックス」と協力しています。緊急事態に迅速に備えるチームの横顔が紹介されています。(●横組み20P)

シエルターボックスは、イギリスを拠点とする非常利団体です。ロータリアン、ローターアクト、インター

アクトは、同団体の初期段階(2000〜2015年)において、その収入の40%、4800万ドル(約49億円)を寄付してきました。

ロータリーのロゴが入った特徴的な緑色のボックスには、緊急事態に対応できるような事前に物資が準備されています。災害規模や被災地の気候によってボックスの中身は異なりますが、

ほとんどの場合、家族用のテントが入っています。

また、太陽光ライト、浄水・貯水器、防寒用の毛布、調理器具なども入っているそうです。

2000年にイギリスのヘルストンリザードRCが、非常利団体シエルターボックスを組織して以来、ロータリーはその活動に大きく貢献してきています。

## 奉仕のアフターケア 全国RCの取り組みを紹介



壁画の消去作業

各クラブの記念事業や普段の社会奉仕活動で、記念像や花壇、備品などを贈ることがありますが、中にはメンテナンスやアフターケアが必要なケースもあるようです。12月号では、地味ながら重要な問題として特集を組んでいます。

函館漁火通の500メートルの護岸には、1997年函館東RC創立40周年を記念して市内の小學生に参加してもらって描いた壁画があります。約20年が経過して劣化。壁画の消去に取り組みたいものです。大変、参考になる記事です。

## ロータリーの友を読もう

12月号で印象に残った記事は、ジョンF. ジャームRI会長の会長メッセージです。タイトルは「見ず知らずの人たちを支援する」。

ジャーム会長は自身の職業であるメカニカルエンジニアを例に、エレベーターに乗る時、車のエンジンをかける時、見ず知らずのうちにエンジニアに命を委ねているとし、いかなる職業についても同じような例を挙げることができると述べています。それは、私たちがロータリーで実践していることと同じように、とも。

そして続けます。私たちが差し伸べる人たちは、ロータリアンが会ったことがないかもしれないし、ロータリーの存在さえ知らないかもしれません。しかし、こうした人たちはロータリーから贈られた井戸からきれいな水を飲み、本を読んだり学び、より良く、より幸福で、より健康的な生活を送っています。

なぜなら「人類に奉仕するロータリー」だからです。

### ★女子サッカー少年交流

ロータリー財団100周年および国際交流プロジェクトの一環として、東京京浜RCは、千葉県の白子海岸などでタイと日本のろう者のサッカー少年・少女のサッカー交流を開催しました。

(●縦組み29P)

### ★白黒TVで五輪観戦

八日市南RCは、第一次南極越冬隊長の故・西堀栄三郎氏から東近江市能登川博物館に寄贈されたものの故障していたモノクロTVを創立20周年事業として修理。4年後も東京五輪の観戦を期待しています。

(■縦組み26P)

### ★「コーヒーは豆ではなく」

姫路RCの卓話で、姫路南RC会員の成田哲朗・成田珈琲代表取締役社長がコーヒーについて話し、「コーヒーは豆ではありません。おいしい飲み方を軽妙に解説しました。

(■縦組み20P)

### ★震災復興の取り組み

福島ヤクルト販売代表取締役会長の渡邊博美氏が東北第2分区IMで講演、学生時代に学んだ渋沢栄一の教えから震災復興に取り組んだ経験を話されています。「人を大切に、磨いて生産性を上げること」。

(■縦組み4P)

(●横組み7P)